

(証券コード：3626)

T I S株式会社 会社説明会

2021年3月

TIS株式会社

1. TISインテックグループとは？
2. TISインテックグループの特徴・強み
3. 成長戦略
4. 株主還元
5. 最後に

- ✓ TISインテックグループは「企業向け総合IT企業」として国内トップクラスの地位。独立系最大手。
- ✓ 特徴・強みは、
 - (1) 強固な経営基盤
 - (2) 決済領域における圧倒的なプレゼンス
 - (3) 独立系による柔軟・スピーディーな経営戦略
- ✓ 10期連続増収・9期連続営業増益・8期連続増配。
過去最高を更新中。 ※2020年3月期実績
- ✓ 今や企業成長にITは不可欠。キャッシュレス社会の実現をはじめとする社会課題の解決を通じ、持続的成長を加速。

1. T I S インテックグループとは？

**「企業向け総合IT企業」として
国内トップクラスの地位**

**長年培った確かな知見と経験、
高い技術力で、
社会における様々な課題の
解決に貢献しています**

～TISインテックグループ ブランドメッセージ～

ITで、社会の願い叶えよう。

様々な得意分野を持つ企業が集う独立系総合IT企業グループ

商号	TIS株式会社
上場	東京証券取引所市場第一部
証券コード	3626
本店所在地	東京都新宿区西新宿8-17-1
創業	1971年
設立	2008年
グループ会社数 ※2020/12/31現在	連結子会社 : 52社 持分法適用会社 : 75社
連結従業員数 ※2020/12/31現在	21,891名
連結売上高 ※2020年3月期	4,437億円
時価総額 ※2021/1/29終値ベース	6,136億円
株価 ※2021/1/29終値	2,330円



TIS株式会社

株式会社インテック
(TIS100%)

株式会社アグレックス
(TIS100%)

クオリカ株式会社
(TIS80.0%、コマツ20.0%)

AJS株式会社
(TIS51.0%、旭化成49.0%)

情報サービス産業の黎明期から業界をリードし続け、 2008年4月の経営統合を経て**独立系の最大手**へと飛躍

1971年設立

TIS株式会社
(株式会社 東洋情報システム)

1964年設立

株式会社インテック
(株式会社 富山計算センター)

2008年4月経営統合

共同持株会社を設立

ITホールディングス株式会社
【純粋持株会社】

2016年7月 **TISインテックグループ**スタート

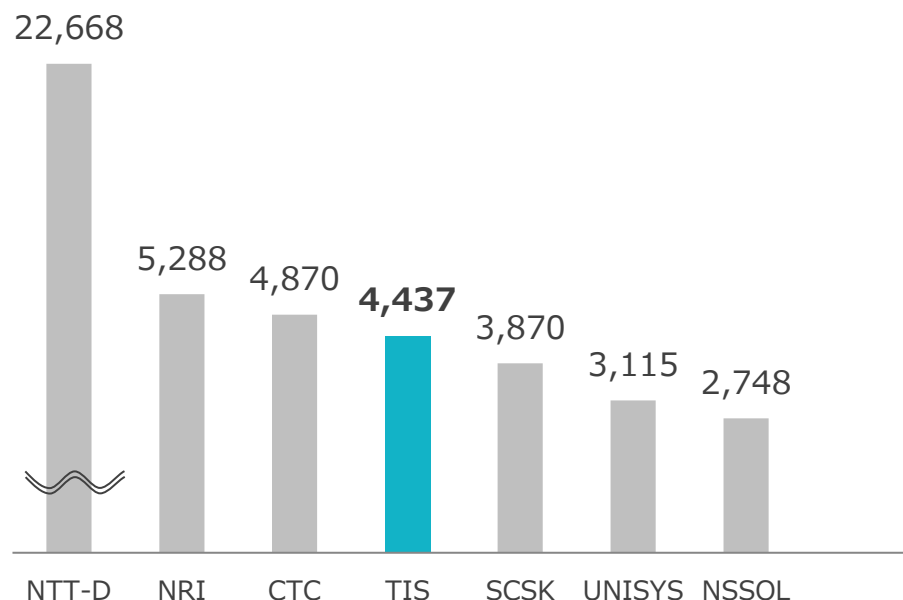
ITホールディングスがTISを吸収合併、社名を「TIS株式会社」に変更

TIS株式会社
【事業持株会社】

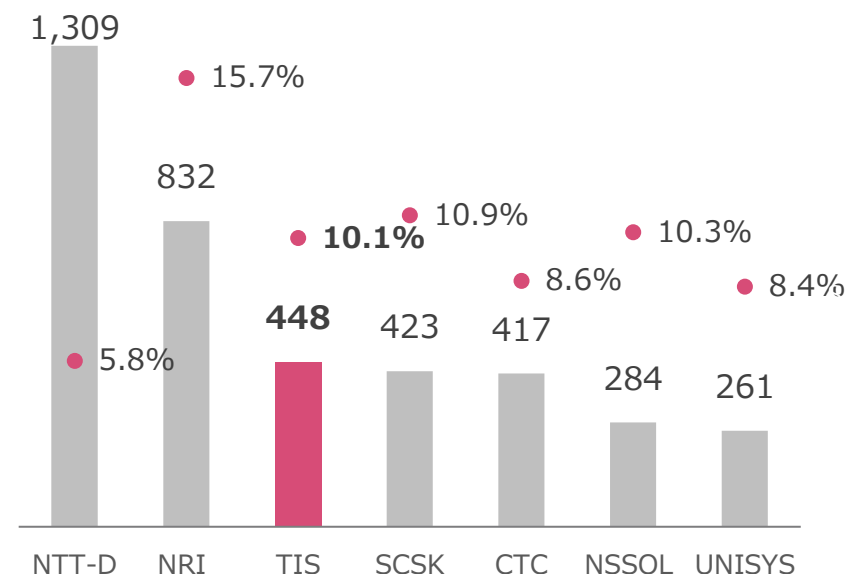
独立系の総合IT企業として リーディングカンパニーの地位を確立

TIS及び主要競合他社 2020年3月期（連結）

<売上高（単位：億円）>



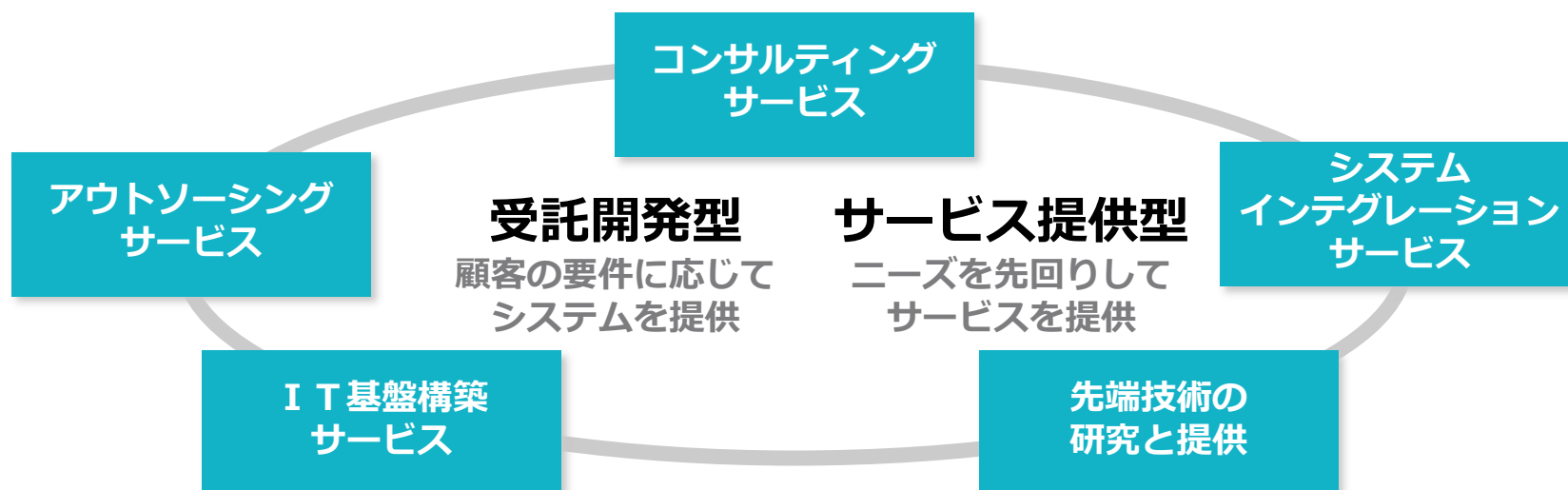
<営業利益、営業利益率（単位：億円）>



※ エヌ・ティ・ティ・データ（NTT Data）、野村総合研究所（NRI）、伊藤忠テクノソリューションズ（CTC）、当社、SCSK、日本ユニシス（UNISYS）、日鉄ソリューションズ（NSSOL）の2020年3月期数値を記載しています。

※ NTT Data、CTCは国際財務報告基準（IFRS）適用により数値を記載しています。

顧客のシステムライフサイクルや多岐にわたるIT関連業務について、**ワンストップで最適なサポート**を実現



コンサルティングサービス	顧客の事業価値を高めるためのIT活用を支援
システムインテグレーションサービス	顧客の要望にベストマッチするシステムをワンストップで提供
アウトソーシングサービス	最新鋭のデータセンターで、ITシステム運用から業務代行（BPO）まで幅広く提供
IT基盤構築サービス	安全安心なネットワーク、ホストからパブリッククラウドまで、ニーズに応じて構築
先端技術の研究と提供	常に最新のIT技術を探求し、一歩先行くシステムを提案



クレジットカードによる
決済システム



銀行業務システム



受注・在庫管理システム

ITサービスの提供により 暮らしの中の様々な社会課題を解決



地域の安定的な電力供給を
支えるための
送配電システム



インターネット・電話による
旅行予約から支払い完了までのサービス



食の安全管理



気象観測、位置情報サービスに欠かせない
人工衛星遠隔操作・制御システム



遠隔地からも家族の健康・管理を把握
できる高齢者見守りサービス



警備、清掃など人の業務を
サービスロボットが代行

10期連続増収・9期連続営業増益、 過去最高業績をさらに更新

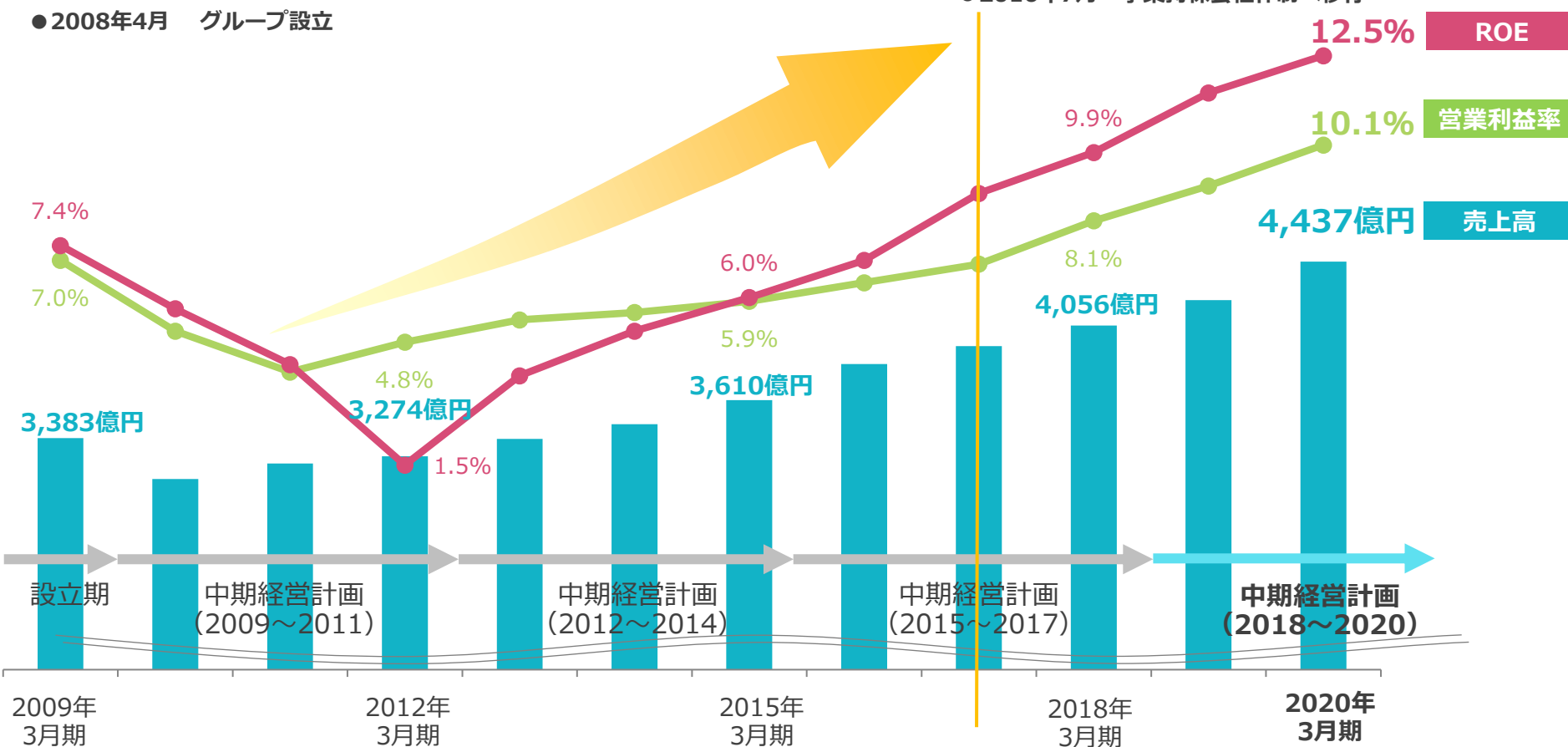
●2008年4月 グループ設立

●2016年7月 事業持株会社体制へ移行

ROE

営業利益率

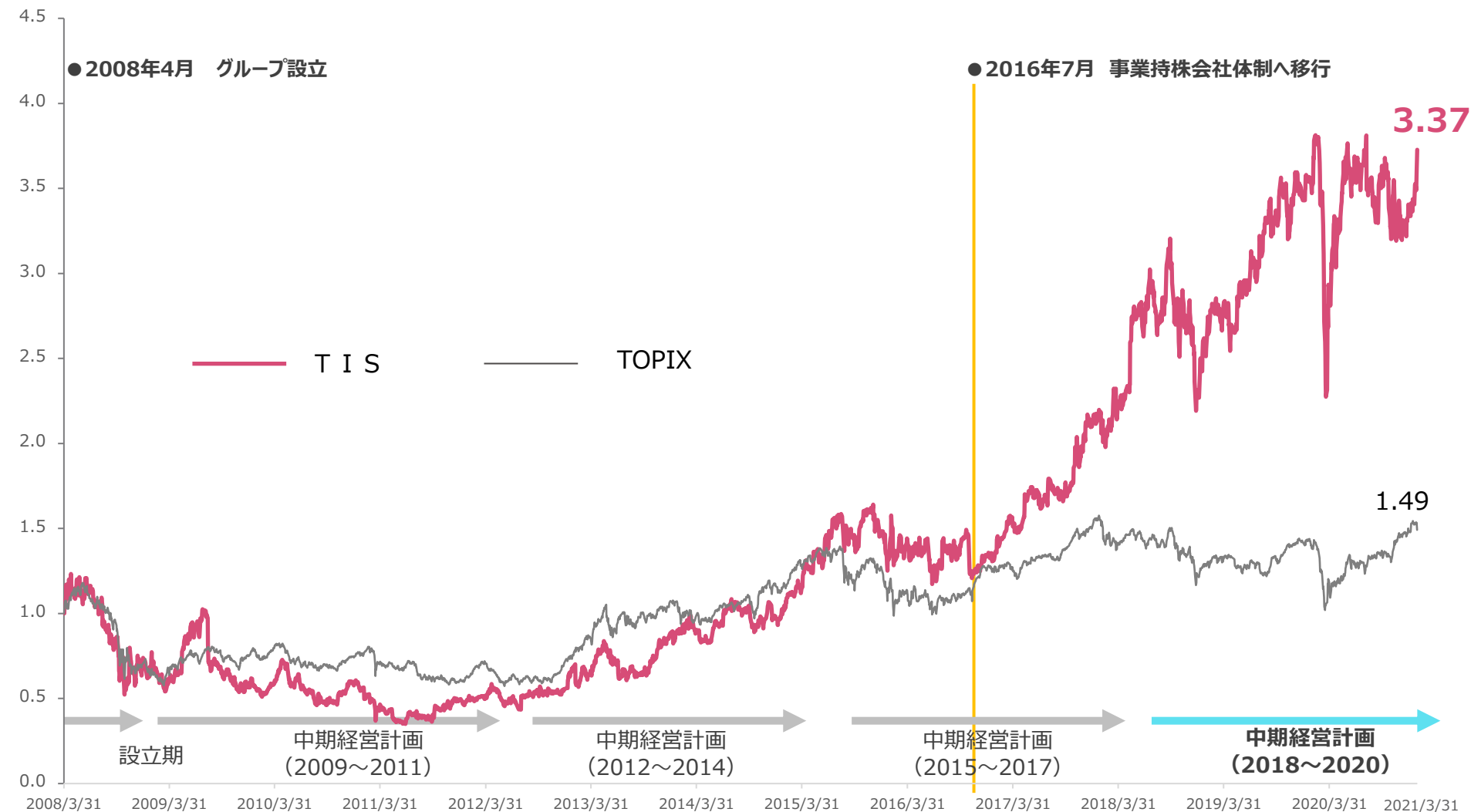
売上高



2016年7月の事業持株会社体制への移行を契機として、グループの成長が大きく加速

(億円)	2016年 3月期	2020年 3月期	4か年変化	年平均 成長率
売上高	3,826	4,437	+611	3.8%
売上総利益率	18.4%	23.9%	+5.5%	—
営業利益	244	448	+204	16.4%
営業利益率	6.4%	10.1%	+3.7%	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	126	294	+168	23.4%
1株当たり 当期純利益(円)	145	350	+205	24.6%
ROE	7.0%	12.5%	+5.5%	—

事業持株会社体制以降、TOPIXを大きくアウトパフォーム



2. T I S インテックグループの特徴・強み

TIS インテックグループの 3つの特徴・強み

(1) 強固な経営基盤

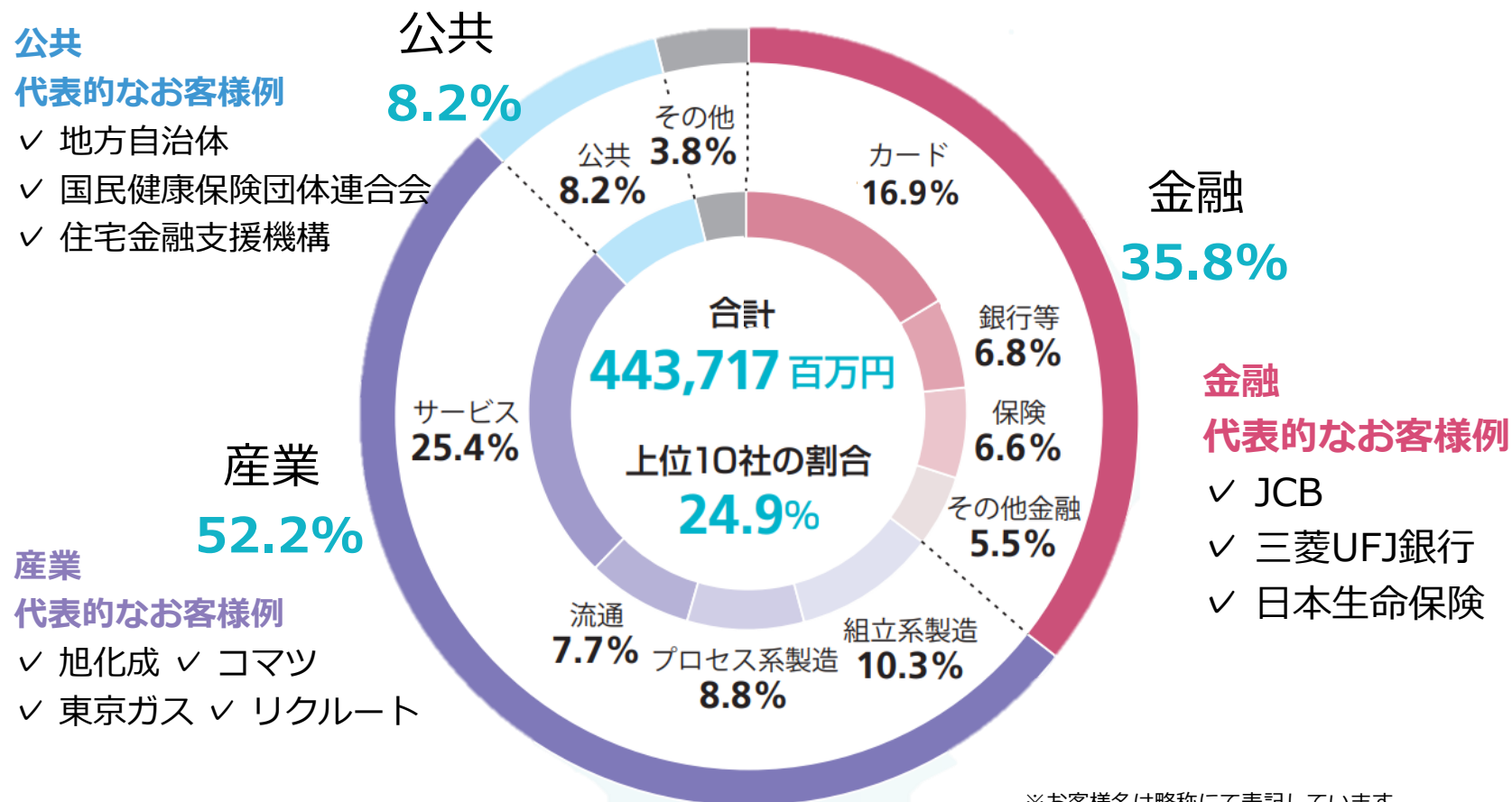
(2) 決済領域における圧倒的なプレゼンス

(3) 独立系による柔軟・スピーディーな経営戦略

(1) 強固な経営基盤 ①顧客基盤

成長に貢献するビジネスパートナーとして、幅広い業種にわたる**約15,000社**（国内）の広範な顧客基盤を有する

顧客業種別売上高 (2020年3月期)



(1) 強固な経営基盤 ②事業基盤

充実した国内事業拠点に加え、**ASEAN地域**での体制拡充を推進中。最先端の調査研究・新事業創出等を目的とした拠点をシリコンバレーに設置。事業展開を支える従業員は**2万人超**

国内事業拠点・ 最新鋭の国内アウトソーシング拠点



海外事業拠点



連結従業員数 **21,891人** (2020年12月31日現在)

安定的な財務基盤に加え、良好な収益性・資本効率性

自己資本比率

(2020年3月期実績)

63.3%

(前期比 +1.3pt)

ROE

(2020年3月期実績)

12.5%

(前期比 +1.0pt)

純資産額

(2020年3月期実績)

2,479億円

(前期比 +135億円)

信用格付

(2020年11月20日取得)

A/ 安定的

※株式会社日本格付研究所の信用格付（長期）

(2) 決済領域における圧倒的なプレゼンス

決済領域において日本を代表するシステムインテグレーターの地位を確立



クレジットカード
基幹システム開発実績

国内市場シェア

約50%

(取引のある顧客のクレジット年間取扱高ベース)

(2) 決済領域における圧倒的なプレゼンス

SIビジネスで培ってきた強みを活かし、技術革新と決済の多様化に対応したサービス型ビジネスをいち早く推進



ブランドデビットカード
関連サービス提供/システム開発実績

国内市場シェア
約80%

つながれば見えてくる。新しい決済、次のビジネス

(取扱い金融機関ベース)

PAYCIERGE (ペイシエルジュ) は、リテール決済を必要とするすべての方々に、利便性の高い安心できる仕組みを提供するリテール決済ソリューションのトータルブランドです。

(3) 独立系による柔軟・スピーディーな経営戦略

経営の独立性を活かし、迅速な判断に基づく戦略的投資を国内外で積極的に推進

■ 国内：

- ・新たなビジネスチャンス獲得に向けた資本・業務提携の推進
- ・「コーポレートベンチャーキャピタル(CVC)」制度を通じたベンチャー企業との協業推進

→投資判断を**最短1か月**で実施

＜近年の主な資本・業務提携 実績＞

ロボティクス	FinTech
AI	クラウド
IoT	ヘルスケア
ブロックチェーン	VR/AR

CVC投資実績
(2020年7月現在)

累計**35件**

※2016年4月より開始

■ 海外：

ASEAN各国の有力企業及び先端技術保有企業との資本・業務提携の推進

- ・ASEANでのグローバル事業拡大・面展開の加速
- ・有望な商材・最先端技術の獲得・投下

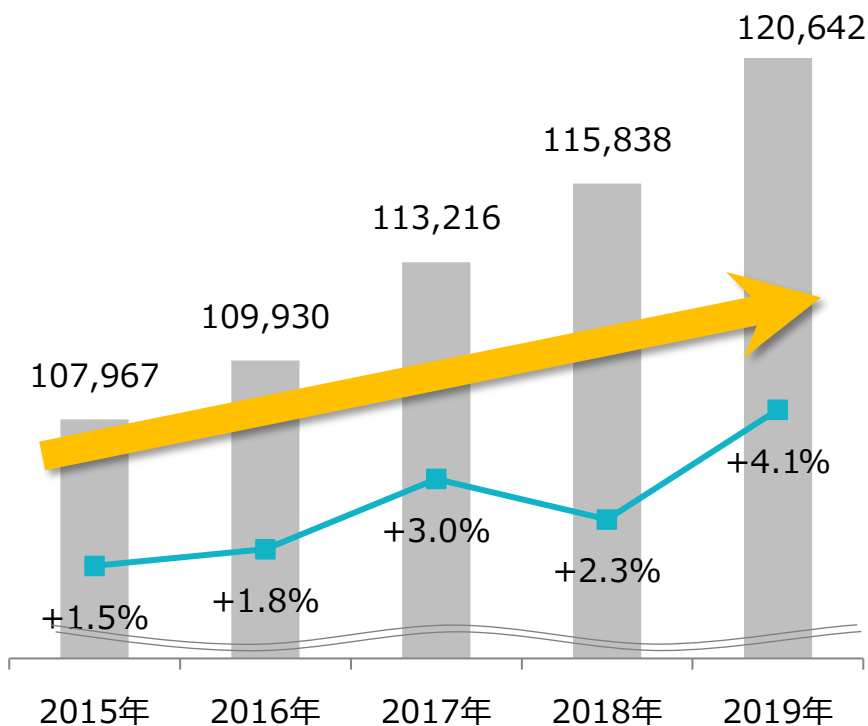
＜近年の主な資本・業務提携 実績＞

Channel	X-Tech	Emerging Tech
Anabatic	GrabLink	Entropica
MFEC	CardInfoLink	Sequent
I AM Consulting	PromptNow	SQREEM
Grab HD	AINO	R3
TinhVan		TBWG

3. 成長戦略

企業成長において、ITは不可欠な時代。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、短期的には留意が必要だが、長期的にはIT投資拡大傾向や終息後の加速に期待ができる

情報サービス業の売上高推移（億円）



出典：経済産業省、特定サービス産業動態統計調査

© 2021 TIS Inc.

Withコロナ／Afterコロナ
ニューノーマル
キャッシュレス
IoT
ビッグデータ
第4次産業革命
DX
FinTech
Society 5.0
ロボティクス
AI
データアナリティクス
2025年の崖

Transformation to 2020

～グループ一体となり構造転換を実現し、社会の課題解決をリードする企業へ～

多様な社員が信頼・誇り・連帯感を持ち
生き生きと働いている
会社



バリューチェーン改革
による高付加価値化
(技術／社会研究成果を価値向上へ)



構造転換に向けた
成長投資額

3
年
間
で

800 億円



構造転換

により戦略ドメイン売上割合
全体の50%



売上高 **4,300** 億円

営業利益 **430** 億円

営業利益率 **10** %

ASEAN地区



トップクラス
のIT連合体へ



経営効率化により

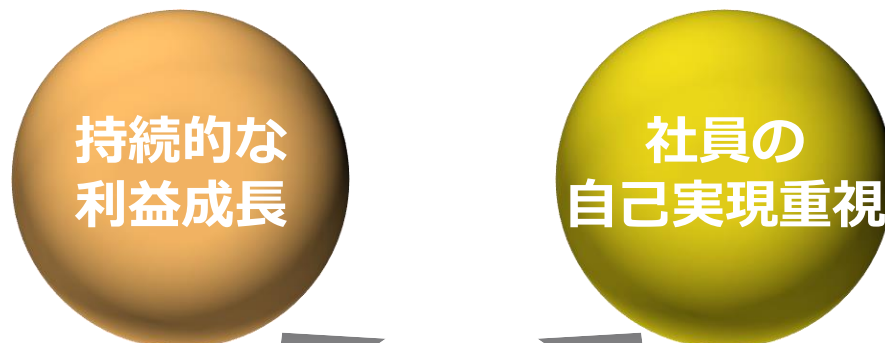
ROE **12%**

事業活動を通じて

**環境・社会の
課題解決**



に貢献する企業へ



- ・事業を通じて社会課題を解決することで、社会とともにサステナブルな企業へ中長期的に利益を生み出す体質確立
- ・本社機能の高度化・効率化によりコスト削減

- ・社員が働きがいを実感できる環境、風土、制度作り
- ・構造転換を支える人財ポートフォリオを構築し、グループでの最適配置

継続的なスピードある構造転換



- ・成長エンジン伸長のための積極投資
- ・顧客提供価値の向上、生産性革新等を通じた既存分野の強靱化

- ・市場／顧客への先回り提案とビジネス創造を実現するための構造転換
- ・M&A、サービス投資等による戦略的な積極投資の拡大

- ・ASEANでトップクラスのIT企業連合体へ
- ・決済／銀行／ERPを中心にグローバルでの強みの強化

＜重要な経営指標（2021年3月期）＞

中期経営計画の重要な経営指標すべてについて、
最終年度である2021年3月期の目標を1年前倒しで達成

戦略ドメイン比率

50% → 50%

(2021年3月期当初計画) (2020年3月期実績)

営業利益

430億円 → 448億円

(2021年3月期当初計画) (2020年3月期実績)

営業利益率

10% → 10.1%

(2021年3月期当初計画) (2020年3月期実績)

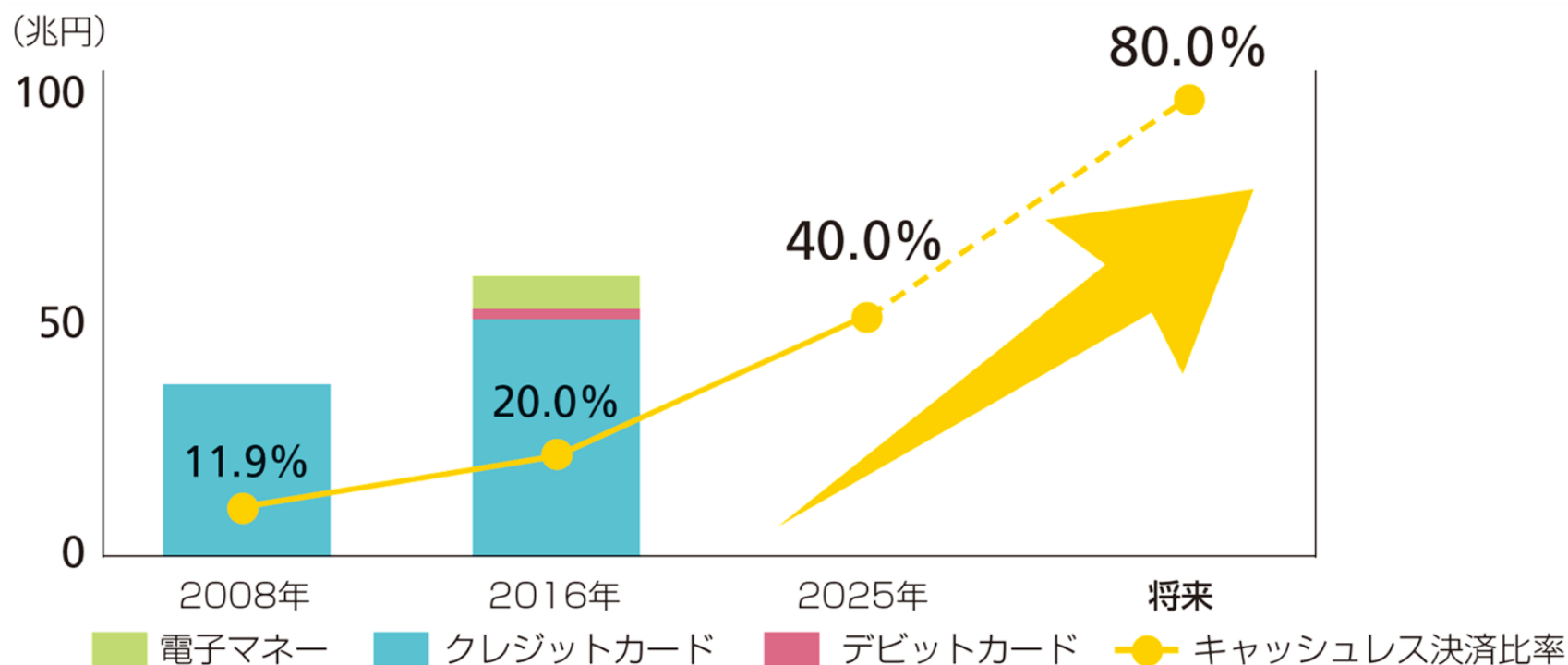
ROE

12% → 12.5%

(2021年3月期当初計画) (2020年3月期実績)

キャッシュレス社会を推進する機運が高まる中、得意とする決済領域の活性化は、当社グループの**成長機会**と期待

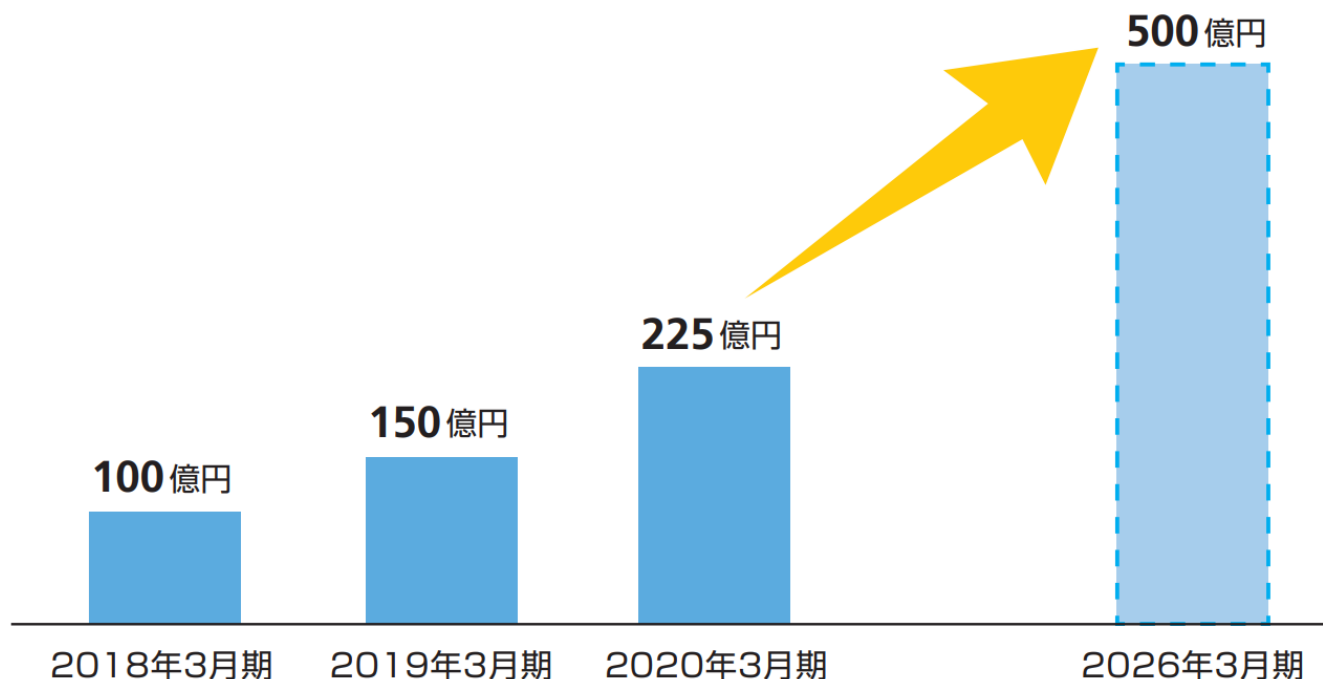
キャッシュレス支払額とキャッシュレス決済率の推移



出典：経済産業省「キャッシュレス・ビジョン」（2018年4月）をもとに当社作成

非接触やEC決済ニーズも高まり、サービス型ビジネスは拡大基調。
2026年3月期の**売上高500億円**に向け、進捗状況は良好

サービスITにおける決済関連売上高（億円）





カード

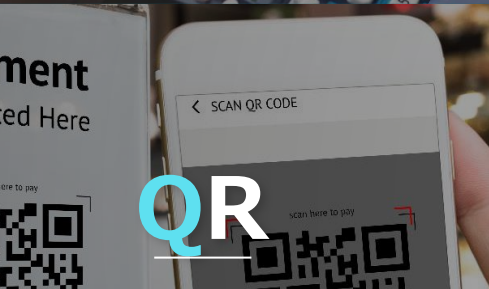


NFC Ring



Blockchain
仮想通貨

画像提供: Visa Worldwide



QR

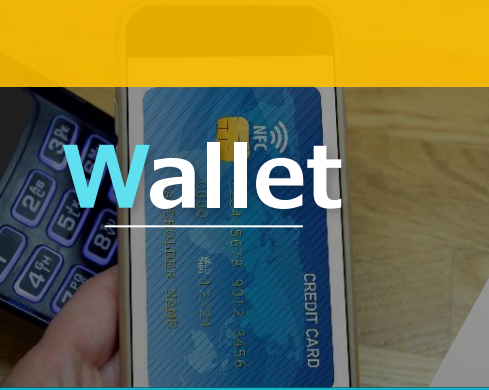


Mobility



AR Shopping

キャッシュレス社会の実現に向け
事業展開を加速



Wallet



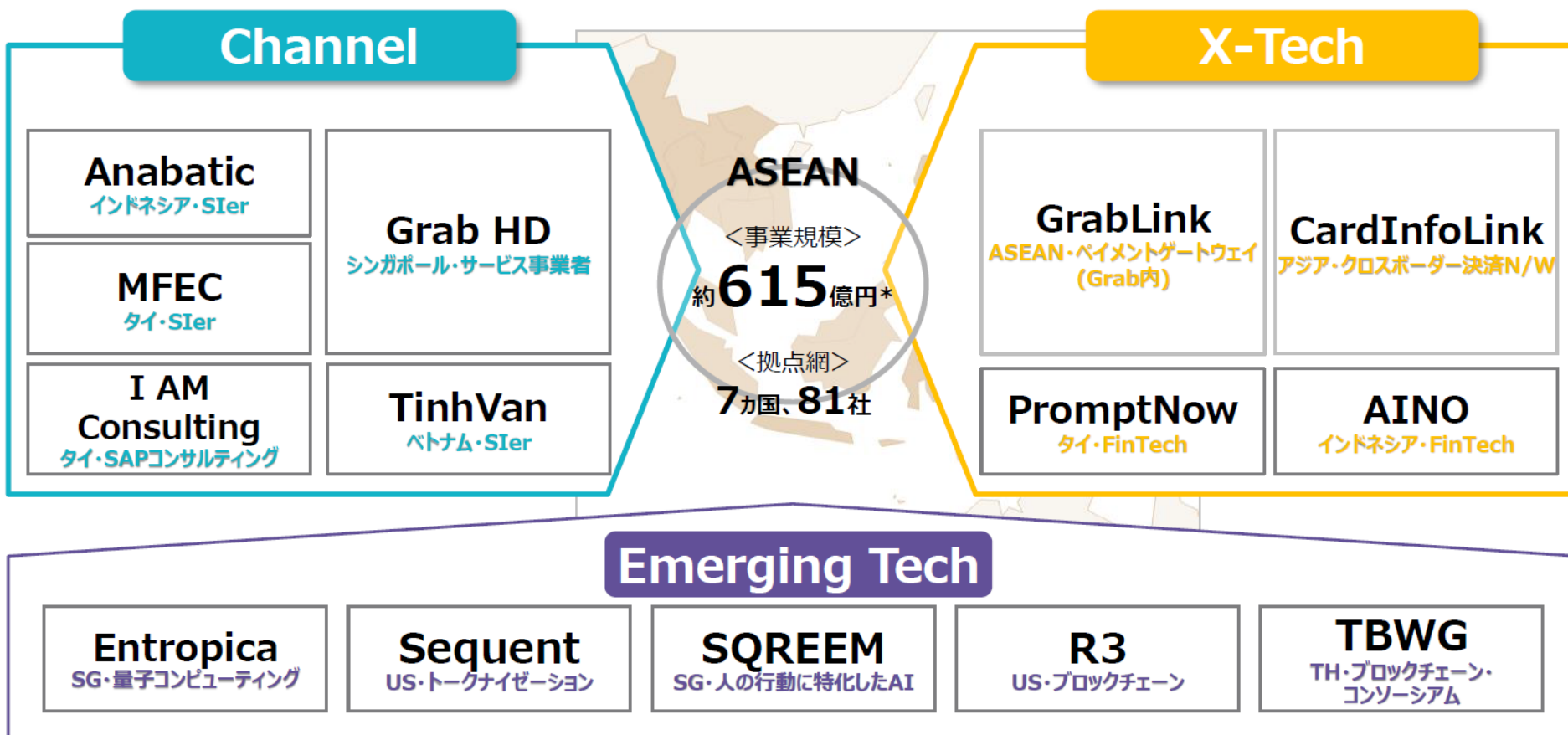
AIスマート
スピーカー



VR Payment

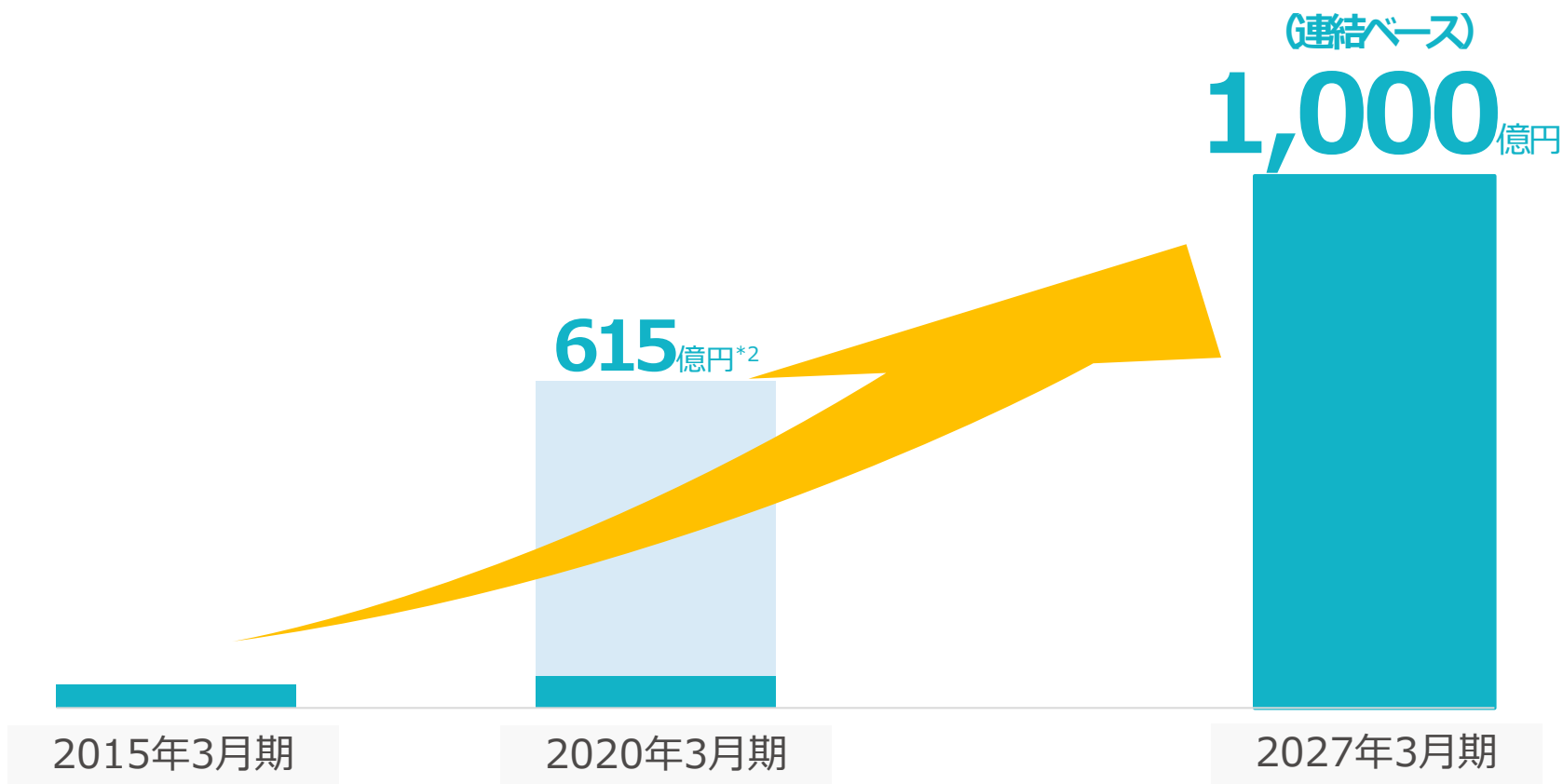
Copyright(C) 2017 Fairy Devices Inc.

資本・業務提携による「顧客基盤」と「先端技術」の融合を通じ、ASEAN諸国での事業領域拡大を推進中



*ASEAN地区子会社 + 持分法適用会社売上高合計。2019年12月期実績を期末レートで換算。

ASEAN上位3社*¹と同等レベルの連合体を組成するため、
グローバル売上高1,000億円を目指す



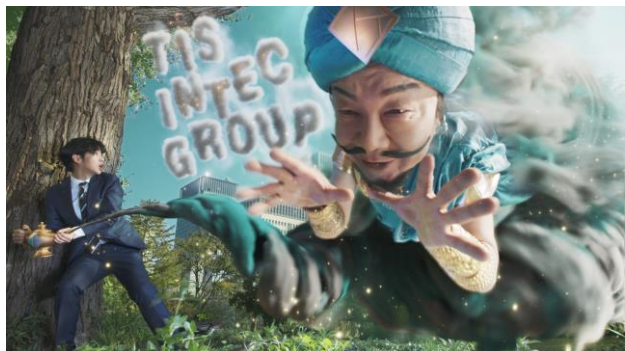
*¹ 当社調べ

*² ASEAN地区子会社 + 持分法適用会社売上高合計。2019年12月期実績を期末レートで換算。

ブランドを起点とした経営基盤のさらなる強化に向け、 戦略的なブランド活動を継続推進。**認知度等は着実に向上**

<第1弾：「魔人登場」編>

■テレビCM放送期間 第1弾：2020年2-3月



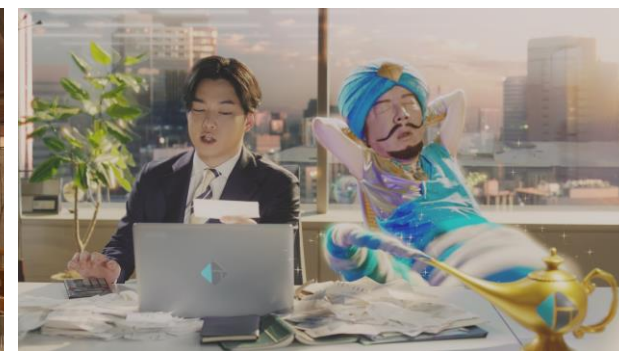
<第2弾：「サクッと決済」編>

■テレビCM放送期間 第2弾：2020年8-9月



<第3弾：「マルっと事務処理」編>

■テレビCM放送期間 第3弾：2021年2月



CM認知度
(ビジネスパーソン)

46%→57%

(2月→8月 ※TIS独自調査)

グループ認知度
(ビジネスパーソン)

19%→32%→43%

(テレビCM展開前→2月→8月 ※TIS独自調査)

IT業界新卒就職
人気企業ランキング

全体：15位→**13位**

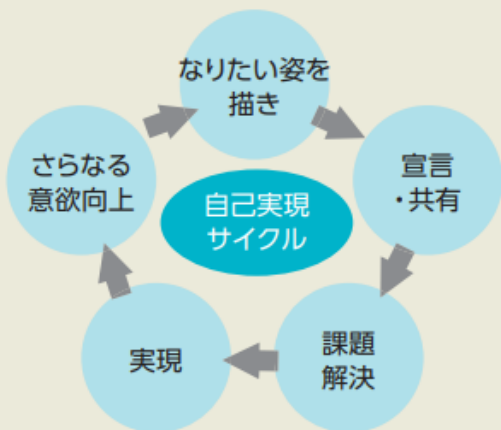
理系：16位→**9位**

すべてのステークホルダーから選ばれる企業グループを目指し、
引き続きブランド向上に注力

人財は最重要の経営資源と位置づけ、社員の自己実現を重視。働きがい向上、人財マネジメントの強化を推進

中期経営計画(2018-2020)における人財戦略

自己実現サイクルの
循環による働きがい向上

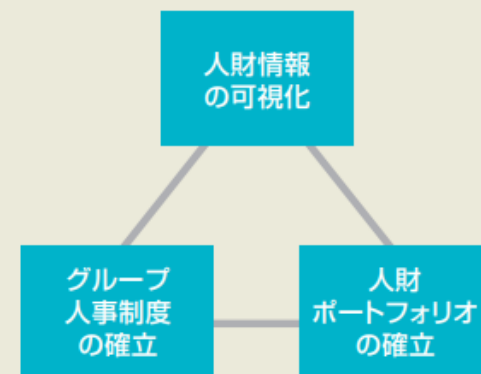


グループの変革を牽引する
モデル人財の重点的な育成

構造転換を牽引する人財像

- 戦略ドメインを牽引する
アカウントマネージャー、サービスマネージャー
- 事業戦略を顧客とともに策定する
コンサルティング人財
- 業界知見・業務ノウハウを商品化できる
サービスプロデュース人財
- 新たな事業を企画、立ち上げ、推進できる
社内起業家人財
- 戦略ドメインを品質と生産性で支える
高度な技術人財

グループ人財の最適配置を
実現する仕組み・制度の整備



「マニフェスト」に沿って、多様な社員が働きがいを実感できる環境、風土、制度作りを強力に推進中

マテリアリティを設定し、優先的に取り組んでいくテーマを明確化。事業を通じた社会的課題の解決の推進を強化

マテリアリティ

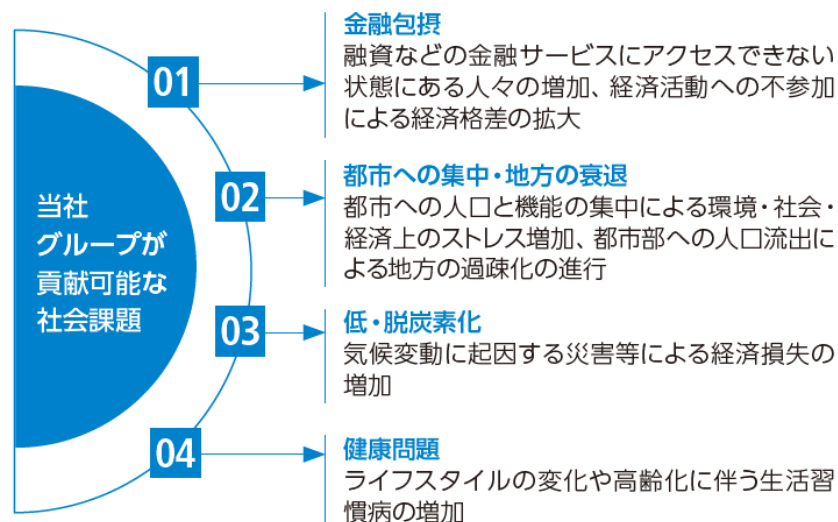
SDGsとの関係

1. 多様な人財が生き生きと活躍する社会を ・ダイバーシティの推進 ・働き方改革の推進 ・自己実現を重視した人財開発・育成	3 すべての人に健康と福祉を 	4 質の高い教育をみんなに 	5 ジェンダー平等を実現しよう 	8 働きがいも経済成長も 	
2. イノベーション・共創を通じ、社会に豊かさを ・人と社会を支える安全で便利な社会基盤の提供 ・ステークホルダー間をつなぎ、共創を促進 ・環境負荷の低減	3 すべての人に健康と福祉を 	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 	9 産業と技術革新の基盤をつくろう 	10 人や国の不平等をなくそう 	13 気候変動に具体的な対策を 
3. 高品質なサービスを通じ、社会に安心を ・継続的な品質向上 ・情報セキュリティ ・個人情報保護	9 産業と技術革新の基盤をつくろう 	12 つくる責任 つかう責任 			
4. コーポレートガバナンスを高め、社会から信頼を ・コーポレートガバナンス ・コンプライアンス ・リスクマネジメント	5 ジェンダー平等を実現しよう 	10 人や国の不平等をなくそう 	16 平和と公正をすべての人に 		

※国連が提唱する「国連グローバル・コンパクト」に署名し、2018年7月19日付で登録済。

社会課題の解決と経営の統合を深めるため、バックキャストによる検討・議論を通じて取り組む方向性を選定

■TISインテックグループが取り組む方向性



当社グループが次期中核事業として積極的に取り組む事業分野

Economy	金融、生産（製造）
Governance	電子政府、都市建設
Mobility	ヒトの移動、物流
Energy & Environment	エネルギー（グリッド関連）
Living	医療・ヘルスケア

次期中期経営計画において、5つの中核事業分野についての事業戦略・投資戦略やR&D戦略等を組み入れる予定。

コーポレートガバナンスの継続的な充実に取り組み、 透明性・公正性の高い経営を実行



(前列左から2番目が代表取締役会長兼社長 桑野徹)

独立社外役員の比率 (2020年3月期)

取締役
3名/9名
※うち、女性1名

監査役
3名/5名
※うち、女性1名

指名委員会・報酬委員会の設置

- ・取締役会の諮問機関として任意の指名委員会、報酬委員会を設置
- ・委員長を含む委員の過半数を独立社外役員で構成

取締役会の実効性評価

- ・2016年3月期から取締役会の実効性評価を毎期実施

4. 株主還元

総還元性向の目安を**35%から40%**に引き上げ、配当性向は安定的な配当成長を通じて**2021年3月期に30%**を目指す

総還元性向（目安）

40%

（35%から引上げ）

配当性向（目安）

30%

（2021年3月期）

自己株式保有

5%程度を上限

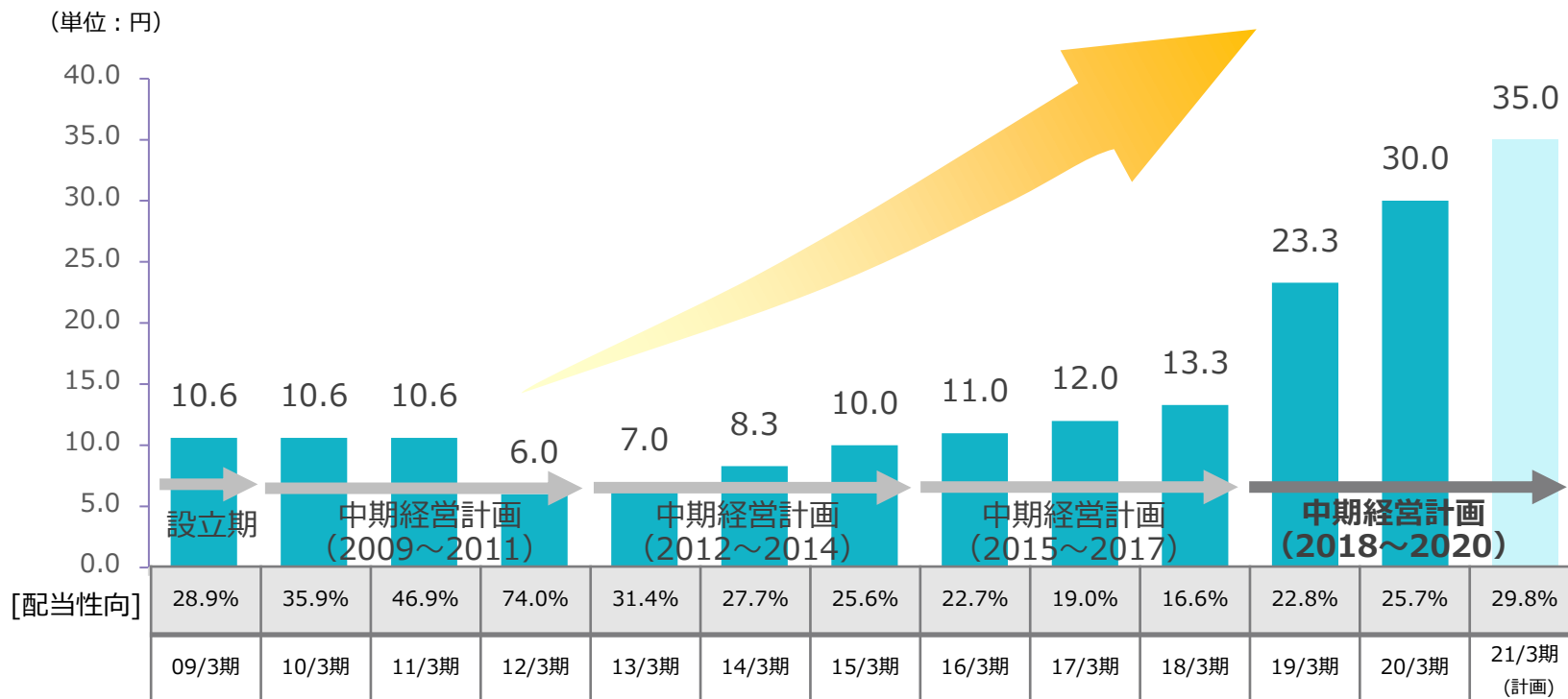
（超過分は消却）



成長投資の推進・財務健全性の確保・株主還元の強化のバランスのもと、資本構成の適正化を推進し、資本効率性の向上を目指す。

配当は8期連続増配中。 前2期は業績好調を受けて期末増配

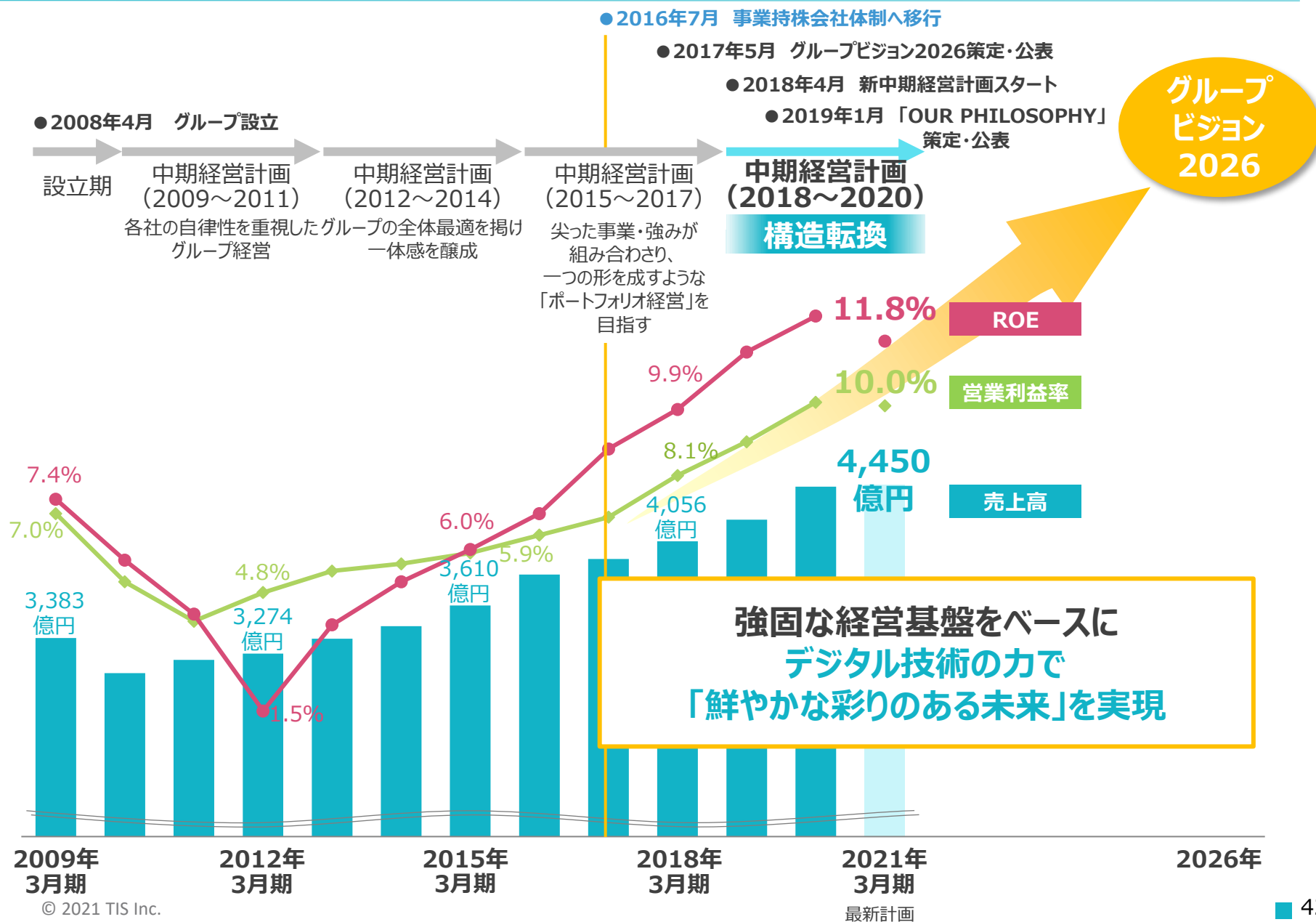
一株あたり配当額の推移



※当社は、2020年4月1日を効力発生日として普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っており、2020年3月期以前の1株当たり当期純利益および1株当たり配当金については、当該株式分割の影響を考慮しています。

5. 最後に

- ✓ TISインテックグループは「企業向け総合IT企業」として国内トップクラスの地位。独立系最大手。
- ✓ 特徴・強みは、
 - （１）強固な経営基盤
 - （２）決済領域における圧倒的なプレゼンス
 - （３）独立系による柔軟・スピーディーな経営戦略
- ✓ 10期連続増収・9期連続営業増益・8期連続増配。
過去最高を更新中。 ※2020年3月期実績
- ✓ 今や企業成長にITは不可欠。キャッシュレス社会の実現をはじめとする社会課題の解決を通じ、持続的成長を加速。



新たな経営執行体制のもと、次期中期経営計画の着実な遂行を通じて持続的な成長と企業価値向上をより一層推進

■ 新代表取締役社長の紹介 ※2021年4月1日就任予定

岡本 安史（現 取締役 副社長執行役員）



（1962年3月3日生）

＜持続的な企業価値向上のためのキーワード＞

- ・ グループ一体経営
- ・ サステナビリティ経営
- ・ 収益性重視
- ・ フロントライン強化

現 代表取締役会長兼社長 桑野 徹は2021年4月1日付で取締役会長へ就任。非執行の取締役会長となり、業務執行側を監督する立場からコーポレートガバナンス体制の充実に努める。

さまざまな取り組みが国内外の調査機関から評価

●ディスクロージャー優良企業選定 (2020年度)

第2位：83.4点（昨年度比+5.2点） ※ITサービス・ソフトウェア部門

「ディスクロージャーの改善が著しい企業」に選定

●JPX日経インデックス400の構成銘柄に選定 (2018年8月以降) JPX-NIKKEI 400

●東証「企業価値表彰」において、表彰候補50社への選抜実績あり (2017年度、2019年度)

●GPIFが採用するESG株式指数の構成銘柄に選定



FTSE Blossom
Japan



FTSE4Good

2020 CONSTITUENT MSCI日本株
女性活躍指数 (WIN)

※ TIS株式会社のMSCIインデックスの組み入れ、およびMSCIロゴ、商標、サービスマーク、またはインデックス名の使用は、MSCIまたはその関連会社によるTIS株式会社のスポンサーシップ、推薦またはプロモーションを意味するものではありません。MSCIインデックスは、MSCIの独占的財産であり、その名称とロゴは、MSCIまたはその関連会社の商標またはサービスマークです。

●「働き方改革」への取り組みが評価



当社グループのことをより一層ご理解頂くため、
ホームページをぜひご覧ください。

<https://www.tis.co.jp/ir/>

「IR情報」＞「IR関連資料」から、統合報告書をはじめとした
最新のIR関連資料をダウンロードいただけます。

外部機関からも高い評価を頂いています。



日興アイ・アール 総合ランキング2020
企業ホームページ 最優秀サイト



大和インベスター・リレーションズ
2020年 インターネットIR・優秀賞



Gomez IRサイト
総合ランキング2020年 銀賞

ご清聴ありがとうございました

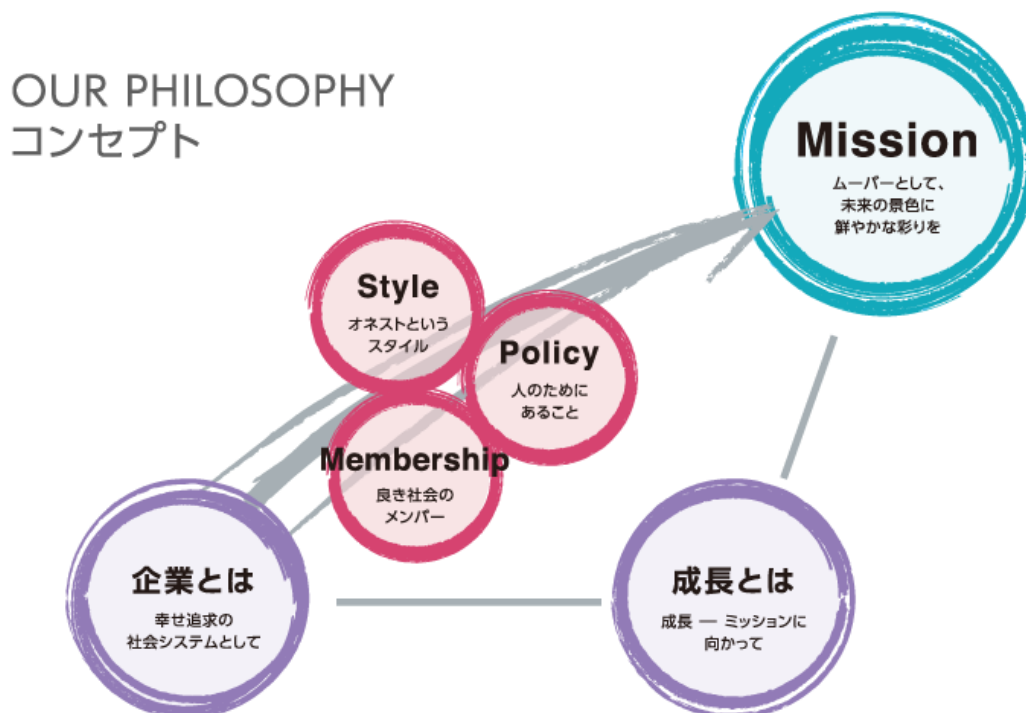
ITで、社会の願い叶えよう。



証券コード 「3626」

参考資料

Mission: デジタル技術を駆使したムーバーとして、未来の景色に鮮やかな彩りをつける



- Mission
- Style
- Policy
- Membership

T I S インテックグループが果たすべき社会的役割、存在意義。
企業行動のもっともベースとなるあり方、グループ経営の意思決定から企業活動全体にまで貫こうとする信念。
T I S インテックグループがもっとも大切にしている経営政策。
T I S インテックグループ構成員の行動指針。

- 企業とは
- 成長とは

ステークホルダーと「価値交換を通して社会の期待や人びとの幸せに貢献する幸せ追求の社会システム」と定義。
「ミッションの実現性の向上」、ステークホルダーとの「価値交換性の向上」と定義。

2016年7月の事業持株会社体制への移行を機に、グループ役職員一同が力を結集して企業価値をさらに高めていくため、将来を見据えた新たなグループビジョンを策定（2017年5月発表）

2026年の企業像

「Create Exciting Future」

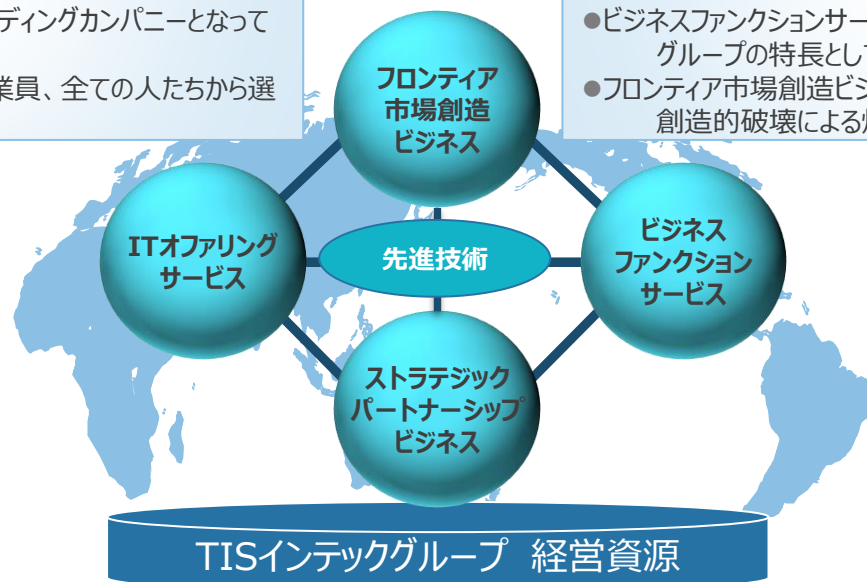
先進技術・ノウハウを駆使しビジネスの革新と市場創造を実現する

グローバルで目指すポジション

- 業界トップクラスの企業から、常に戦略パートナーとして頼りにされる魅力的な存在となっている
- 既成業界・市場の変革に常にチャレンジし、新たな市場を創造するイノベーターとして評価されている
- IT企業を超え、新たな業態におけるリーディングカンパニーとなっている
- 高い知名度を誇り、お客様、社会、従業員、全ての人たちから選ばれる企業グループとなっている

戦略ドメイン※

- ストラテジックパートナーシップビジネス（SPB）：
収益基盤と技術・ノウハウ基盤を両立
- ITオフリングサービス（IOS）：
先行投資型ビジネスとして利益の主軸
- ビジネスファンクションサービス（BFS）：
グループの特長として認知され成長を牽引
- フロンティア市場創造ビジネス（FCB）：
創造的破壊による爆発的な成長を牽引



※2026年にTISインテックグループの中心となっているべき4つの事業領域

TISインテックグループの価値創造プロセス

経営理念

＜グループ基本理念「OUR PHILOSOPHY」＞

(ミッション)ムーバーとして、未来の景色に鮮やかな彩りを

ビジョン

＜グループビジョン2026＞
(2026年の企業像) **“Create Excitig Future”**

先進技術・ノウハウを駆使しビジネスの革新と市場創造を実現する

経営資源

多様な人材

連結従業員数
(2020年3月31日現在)
19,744人

高い技術力

豊富な経験・ノウハウ

幅広いサービスメニュー

累計ソリューション数
(2020年3月31日現在)
約500

最新鋭のアウトソーシング
拠点

広範な顧客基盤

顧客数
(2020年3月31日現在)
約15,000社(国内)

強靱な財務基盤

純資産額
(2020年3月期)
2,479億円
自己資本比率
(2020年3月期)
63.3%
信用格付(長期)
(2019年11月15日取得)
A/安定的

etc

マテリアリティ

多様な人材が
生き生きと
活躍する社会を



イノベーション・
共創を通じ、
社会に豊かさを



高品質な
サービスを通じ、
社会に安心を



コーポレート
ガバナンスを高め、
社会から信頼を



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS

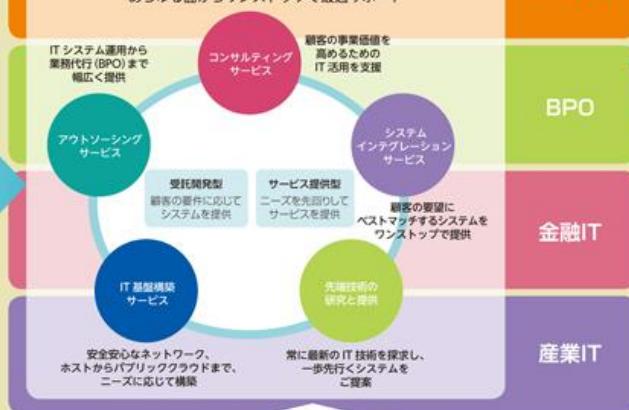
持続的成長のための経営戦略・施策

中期経営計画(2018-2020)

“Transformation to 2020”

TISインテックグループの事業活動

顧客のシステムライフサイクルやIT関連業務を
あらゆる面からワンストップで最適サポート



持続的成長を支える仕組み

コーポレートガバナンス
リスクマネジメント
品質管理/生産革新

社会への提供価値

ITで、社会の願い叶えよう。

経済価値 (2020年3月期)

売上高 **4,437 億円**
営業利益 **448 億円**
ROE **12.5 %**

社会価値

株主・投資家

- 持続的な株主価値の向上と株主還元
- 透明性の高い情報開示
- 建設的な対話の推進

お客様

- 最適なサービス提供
- ITの新たな利用形態の企画・提案
- ビジョンや戦略の実現をリード/サポート

ビジネスパートナー

- 新たな付加価値の共創
- 公正・透明・自由な競争、適正な取引
- 責任ある調達

従業員

- 成長と自己実現を果たせる機会の提供
- 安全で働きやすい環境の提供
- ダイバーシティ推進

地域・社会

- 高度情報化社会を支えるシステムの提供
- 安心・安全な暮らしの提供
- 環境負荷の低減

信頼・期待に
伴う成長機会の
獲得



デジタル技術を
駆使した
社会課題の解決

TISインテックグループ（当社、連結子会社52社、持分法適用会社75社）

※2020/12/31現在

<主要事業会社>

会社名	株主構成		会社概要	2020年3月期業績 (百万円、単体ベース)	
				売上高	営業利益
TIS株式会社	—		クレジットカード業向けを中心に、サービス業・製造業向け等、幅広く展開。2016年7月に純粋持株会社 ITホールディングス株式会社(ITHD)と合併し、事業持株会社となる。 (1971年4月創業)	196,661	19,597 (10.0%)
株式会社インテック	TIS	100%	メガバンク・生保大手向けを中心に、地銀向けCRM展開や地方公共団体（北陸）向け等、幅広く展開。 (1964年1月設立)	116,360	10,055 (8.6%)
株式会社アグレックス	TIS	100%	主力のBPOではリーディングカンパニー。2013年10月よりグローバルBPO事業を開始。グループ内BPO事業の集約のため、2015年3月に100%子会社化。 (1965年9月設立)	33,729	2,149 (6.4%)
クオリカ株式会社	TIS コマツ	80.0% 20.0%	コマツの元・情報システム子会社。 コマツグループ向けを中心とする組立系製造業のほか、流通・外食業向けへ拡大中。 (1982年11月設立)	21,176	2,195 (10.4%)
AJS株式会社	TIS 旭化成	51.0% 49.0%	旭化成の元・情報システム子会社。 旭化成グループ向け中心。 (1987年3月設立)	16,865	1,892 (11.2%)

海外での主なM&A、資本・業務提携実績

	PT Anabatic Technologies Tbk (持分法適用会社 = 出資比率37.3%)	2015年7月 資本・業務提携、2019年10月 出資比率増 インドネシア証券取引所上場のインドネシア国内トップクラスのIT企業	売上高：442億円
	MFEC Public Company Limited (連結子会社 = 出資比率49.0%)	2014年4月 資本・業務提携、2020年10月 子会社化 タイ証券取引所上場の、エンタープライズ向けITソリューション提供のリーディングプレイヤー	売上高：133億円
	I AM Consulting Co., Ltd. (連結子会社 = 出資比率99.9%)	2014年6月 連結子会社化 タイにおけるSAP関連ITソリューションをトータルプロデュースするコンサルタント集団	売上高：25億円
	TinhVan Technologies JSC. (出資比率19.9%)	2018年6月 資本・業務提携 ベトナム政府・金融機関への導入実績を多数保有する有力ITサービスプロバイダー	
	SQREEM Technologies PTE. LTD. (出資比率6.8%)	2019年5月 資本・業務提携 世界最大規模の行動パターン・データ・アグリゲーターで、膨大なデータを基に独自のAI技術を利用したデジタルマーケティング、データ分析分野で急成長を遂げているシンガポールのスタートアップ企業	
	R3 HoldCo LLC (出資比率1.4%)	2018年6月 資本・業務提携 企業間取引向けブロックチェーン関連技術において世界トップクラスの実績・ブランドを誇る米国スタートアップ企業	
	上海訊聯数据服务有限公司(CardInfoLink) (持分法適用会社 = 出資比率18.1%)	2017年9月 資本・業務提携、2020年3月 持分法適用会社 ペイメントゲートウェイソリューション等を武器に中国・グローバル展開中のFinTechプレイヤー	
	PromptNow Co., Ltd. (連結子会社 = 出資比率60.0%)	2016年5月 連結子会社化 金融機関向けに自社モバイルサービスを多数保有するタイの有力FinTechプレイヤー	
	Sequent Software Inc. (連結子会社 = 出資比率60.0%)	2017年5月 資本・業務提携、2020年2月 連結子会社化 複数の国際ブランドからの認定を受けている世界でも数少ないトークナイゼーションベンダーの1社	
	Grab Holdings Inc.	2020年2月 資本・業務提携 ASEAN トップクラスのスーパーアプリを展開。配車サービスをはじめ、フードデリバリーや金融事業など多岐にわたる事業を次々に展開し、累計1億8,500万ダウンロードを誇る。	

※売上高は各社の2019年12月期実績を期末レートで換算

※出資比率は2020年10月5日時点

キャッシュレス社会の実現

決済を必要とするすべての人に、便利で安心安全な仕組みを提供します。キャッシュレス社会をプロアクティブに創り出し、社会基盤を支える存在を目指します。



社員が能力を最大限に発揮できる環境づくり

社員ひとりひとりが能力を最大限発揮できるよう、職場環境と労働環境の向上に向けた様々な取り組みを行っています。



少子高齢化社会への対応

IoTやロボティクス技術などを活用することで、少子高齢化社会が進み、多様化する社会生活環境に対応した様々なサービスを作り出しています。



SDGs未来都市プロジェクトへの参画

「SDG s 未来都市」のひとつとして選定された富山市において、街づくりや農山村の低炭素化などモデル事業推進の支援を行っています。



環境負荷の低減

事業活動を通じ、データセンターやオフィスなどにおいて、環境問題対策にも積極的に取り組んでいます。



社会に安心を提供するための品質の向上

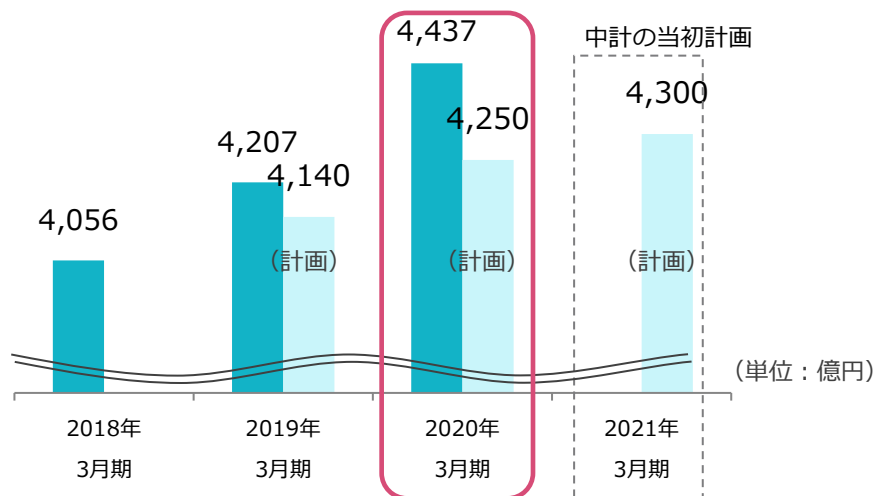
社会インフラとしての情報システムを担う社会的責任を認識し、サービスの品質向上に取り組んでいます。



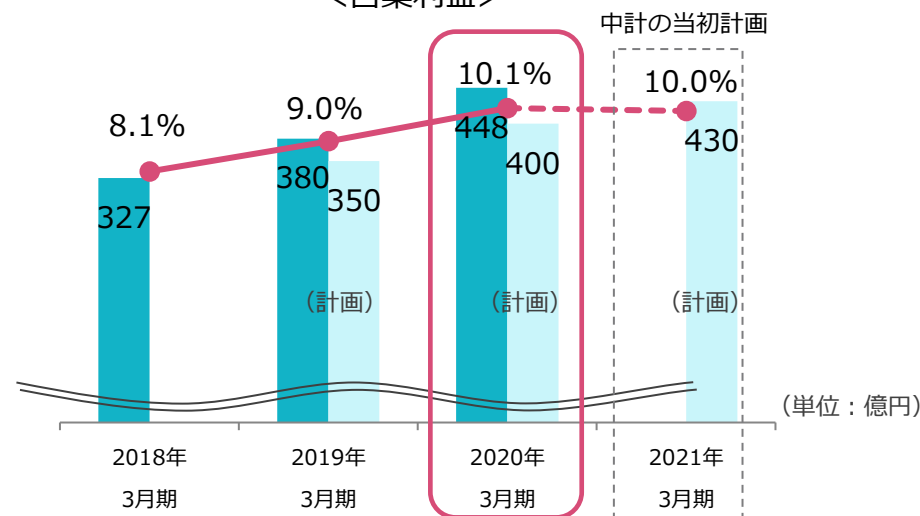
中期経営計画（2018-2020）の進捗状況

2年目の2020年3月期に最終年度の計数計画を達成済

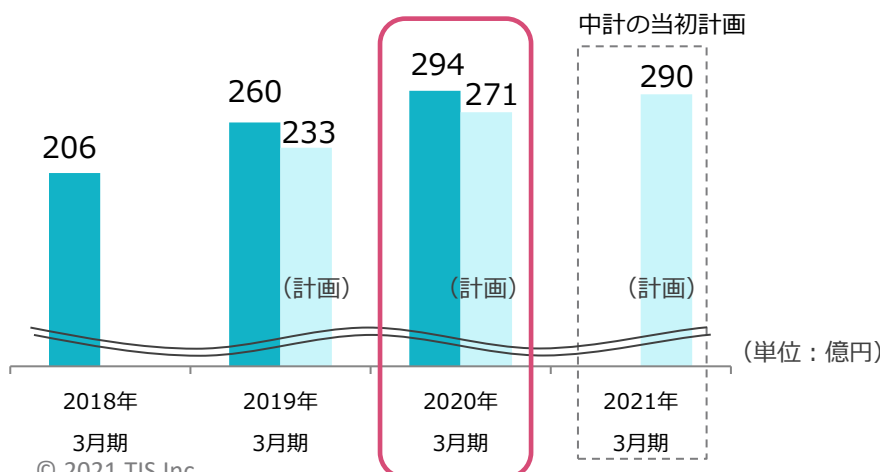
＜売上高＞



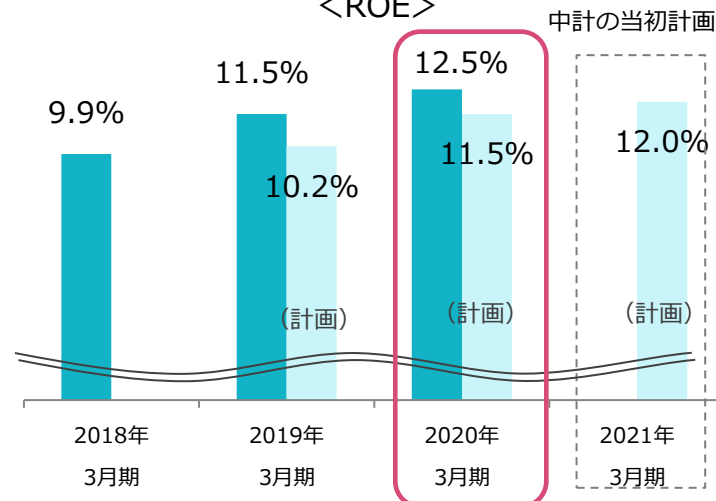
＜営業利益＞



＜親会社株主に帰属する当期純利益＞



＜ROE＞



第3四半期連結累計期間までの進捗率は前年同期並み。 通期計画達成に向けて進捗状況は良好

(億円)	2020年3月期			2021年3月期		
	3Q累計	通期	進捗率	3Q累計	通期計画	進捗率
売上高	3,190	4,437	71.9%	3,180	4,450	71.5%
営業利益	301	448	67.1%	300	445	67.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	204	294	69.5%	181	295	61.4%

2021年3月期業績予想の前提条件

- ・新型コロナウイルス感染症による影響の収束時期を合理的に見通すことができないため、確度の高い業績予想の算出は困難。
- ・2021年3月期の業績予想は「経済活動が徐々に回復していることに伴い、第3四半期から当社グループの事業環境が正常化」との仮定で算出。
- ・実際の新型コロナウイルス感染症拡大の収束状況等によっては業績予想を変更する可能性あり。

私たちの使命は、

先進的なデジタル技術やノウハウを駆使し、

これまでにない新たな発想とやり方で

世の中が抱えている課題を解決すること。

それによって社会にさらなる活力と彩りを与え、

昨日より笑顔であふれてる未来を創造したい。

ITには、明日をもっと明るくする力があるはずだから。

ITで、社会の願い叶えよう。



<本資料の取り扱いに関して>

本資料は、著作権法及び不正競争防止法上の保護を受けております。資料の一部あるいは全部について、TIS株式会社から許諾を得ずに、複写、複製、転記、転載、改変、ノウハウの使用、営業秘密の開示等を行うことは禁じられております。本文記載の社名・製品名・ロゴは各社の商標または登録商標です。

